

特別活動部会

研究主題 望ましい集団活動を通して、

よりよい集団を築こうとする生徒の育成

1 主題について

よりよい集団を築こうとする生徒の意識を高めるには、集団思考から自己決定できる活動が一人一人の自己存在感につながると考える。また、話し合い活動を通して他者の存在を認め、望ましい集団活動を研究するために本主題を設定した。

2 今年度の取組

月 日	実践内容	月 日	実践内容
4月11日	第1回総合研究会 研究主題設定・年間計画作成	11月12日	第2回総合研究会 授業研究会（大館第一中学校）

3 研究内容

(1) 授業研究

- ・期 日 平成25年11月12日（火）
- ・会 場 大館第一中学校
- ・単元名 2年進路と適性「進路適性の吟味と進路情報の活用」
- ・授業者 須合 康

① 授業者から

- ・年間指導計画の11月の内容が進路と適性であり、「中学校生活と進路」を参考にしながら本校の特色であるOHBYカードを取り入れた。本校のキャリア教育では高校生や地域の方と交流するなど進んだ取組をしている。VRTカードを1年時に使用したので、今年はOHBYカードを使用した。今後はキャリアインサイトを使う予定である。実際は1時間かけて行いが、今回は省略しながら行ったので、子どもたちはじっくり考える時間がなかった。
- ・話し合い活動を意識し、また適性という大きなねらいに向かわせるために進路に関する事例を提示した。指導要領の最後に「強い意志と努力に勝る適性はない」とあったので、押さえておきたかった。適性は自己理解から始まる。友達のアドバイスや自分の取組をすべて合わせて適性ということをつかっていた。

② 協議

- ・最後の事例は、もう1時間かけてもよいかもしれない。自分の例を出してみてもよい。余裕をもった学習活動があってもよいように感じた。
- ・子どもたちが非常に素直に意見を述べており、教師が適切に拾っていた。OHBYカードのねらうところがしっかりつかまれている。導入で押さえた「働くことの意義」が、5月の体験学習や学校祭とつながっているのがとてもよく、教師の指導がきめ細かくて感心した。熱意が伝わった。事例に関しては、資料で始まっているので、資料で終わるやり方もいいのではないか。
- ・導入での意欲の高め方がすばらしかった。自分の興味について考えた後、それだけではないという事例を出したことがよかった。
- ・後半で、友達からのアドバイスをもらい、生徒はうれしそうに見ていた。指導案に「多面的」という言葉があるが、OHBYカードで自分が知っている自分や自分が知らなかった面は出るが、自分は知らずに他人が知っている自分は出てこない。しかし、友達からのアドバイスという形で、教師が補っていた。

- ・課題の設定について、なぜ今日は適性についてやる必要があったのか、生徒はわかったのか。また、子供たちはOHBYカードの職業の順位付けに悩んでいたが、教師からのキーワードの提示や話がとてもよかった。適性は興味や能力などいろいろな種類があるので、じっくりそれにつなげて調べてみるなど幅をもたせるとよい。
- ・「高校中退者やフリーター・ニートが増えてきており、100人中44人が仕事を変えている。なぜみんな職業を変えているのか?」という疑問点を挙げて、必要感をもたせるといふ他校の例もある。

(2) テーマ研究

- ・部会テーマ「望ましい集団活動を通して、よりよい集団を築こうとする生徒の育成」に基づいた各校の実践例を紹介し合った。各校の特色を生かした様々な取組を学ぶことができた。



【OHBYカードに取り組む様子】

(3) 指導助言（佐藤 勇一 指導主事）

- ・教師の手立てが豊富で細かな配慮がたくさんされていた。キーワードの掲示は生徒の思考の手助けになる。事例も自分のことを他者に投影し冷静に分析できる支援になっていた。生徒の意見を予測して短冊を作っていたことから発問が練られていたことがうかがえる。
- ・生徒の発表は考えの質が高く、友達の見解と比べて話し合うこともできていた。適性を努力で補いたいと話していた生徒もおり、本時のねらいにせまっていた。
- ・友達からのアドバイスシートで生徒の表情が大きく変わった。恥ずかしさと喜びの笑顔が混じりながらも自己有用感を得ていた。事例の話合いでは集中力が高まった。資料が分かりやすく客観的に考えることができるもので、意思決定、自己選択の手立てになった。
- ・生徒指導の三機能はよりよい人間関係を築く根底になる。話合いの場面で話し手が聞き手を意識したり、聞き手も傾聴したり代弁したりすることを普段から意識して行うとよい。また失敗経験を生かして成功をほめる場を意識してつくったり、集団でしか味わえないこともあることを教えたりする。教師も人間関係のスキルアップをしていく。ありがとうやがんばれという言葉を使わなくても伝わるような言葉かけを考え、言われてうれしい言葉をもろう経験を積み重ねることで、生徒も実践できるようになる。
- ・人はなぜ学び続けなければならないのかという問いに対し、自分の夢や職業を実現させるという目的をもたせる。今の生活や学習をどう実践していくのが鍵。強い意志と努力に勝る適性はないということを押さえ、学び続ける意志をもたせる。そして、3年生で適切な選択ができるようにするためのスキルを学ぶ活動につなげていくことが重要である。
- ・人間性、学力、体力の三つが教育。特別活動は人間づくりの目標である。学力以外で育てたい多くのことが入っている。人間性を育て、大館や日本を支える人を育てたい。

4 成果と課題

(1) 成果

- ・様々な手立てが、個人の進路や職業の選択・決定につながっていた。話合いを通して、自分の夢や職業の実現について意識を高めることができた。

(2) 課題

- ・話合い活動をより充実させることで、集団思考を生かした自己決定につなげていきたい。また、普段から生徒指導の三機能を意識し、よりよい集団作りをしていきたい。